

榎野地北遺跡は、下総台地と呼ばれる台地の上にあります。現在の下総台地は江戸時代(1641年)の江戸川の開削により、二つに分断されていますが、もともとは一つの台地でした。幸手市や杉戸町の遺跡はこの台地上に集中しています。

縄文時代前期は縄文海進により台地縁辺部が海岸線となり、魚介類を求めて集落が形成されました。周辺では弥生時代の遺跡はみつかっていませんが、古墳時代には古墳が築かれ、前期から後期にかけて集落が点在するようになります。

1,300年前	1,700年前	2,500年前	15,000年前	35,000年前
奈良	古墳	弥生	縄文	旧石器
後期	中期	前期	前期	早期
後期	中期	前期	前期	早期
後期	中期	前期	前期	早期
後期	中期	前期	前期	早期

向山遺跡②で焼く内に廃棄された貝が見える。炬火がつけられる。

榎野地北遺跡・榎野地原遺跡③④⑤⑥⑦⑧⑨で土塚が形成される。木浦内貝塚③で土塚が形成される。冷温化などにより、海退が始まる。浅間下遺跡⑧で集落が形成される。環状貝塚である神前貝塚⑥が形成される。

任地部の上層遺跡③や台地上の榎野地北遺跡など集落が形成される。

目尻古墳群④が築かれる。

向山遺跡②から、祭祀に使用した遺物を廃棄した塚がある。

前方後円墳の目尻古墳群が築かれる。

宮ノ腰遺跡⑤で、下総北武蔵の影響を受けた土器が出土。

各古墳が築かれる。翌、下総の増加。律令国家の成立により、下総内郡郡に編入される。

奈良時代も榎野地北遺跡がみつかる。須賀野が海進する。

向山遺跡②で焼く。

住居がみつかる。

青は榎野地北遺跡のできごと

発見!! 下総台地北西部の古代集落

まきのじきた 幸手市 榎野地北遺跡 (第4次)



平成26年度 第3回遺跡見学会
平成26年10月4日(土)

榎野地北遺跡は幸手市東部の下総台地上にあります。

(公財)埼玉県埋蔵文化財調査事業団が、江戸川の堤防強化対策事業に先立ち平成25年度から発掘調査を行っています。

本年度は、縄文時代早期(約7,000年前)の炉穴や、前期(約6,000年前)の貝殻が詰まった土壌、古墳時代前期～後期(約1,700～1,400年前)・奈良時代(約1,300年前)の竪穴住居跡がみつかりました。

昔からとても住みよい場所であったことがわかりました。



主催 埼玉県教育委員会
共催 幸手市教育委員会 公益財団法人埼玉県埋蔵文化財調査事業団
後援 国土交通省関東地方整備局江戸川河川事務所



槇野地北遺跡 主な遺構の紹介



炉穴



火を焚いた場所



こんな風に使っていたのかな？

掘り込みが深い炉穴の断面



真赤に焼けている！

横から見た炉穴

縄文時代早期の炉穴（火を焚いた調理施設）です。深い掘り込みをもち、人が入れるくらいのおおきな炉穴と、掘り込みが非常に浅い炉穴の2種類がみつかりました。

貝

縄文時代前期の貝殻が詰まった土壌です。実は縄文早期の土壌が埋まった後に新たな穴（土壌）を掘って貝殻を捨てたものです。

貝の種類
アサリ
ハマグリ
シオフキ
イタボナキ
など



貝殻が詰まった土壌

白玉が出土した竪穴住居跡
★土玉が出土した竪穴住居跡

白玉と土玉が出土した！！

古墳時代後期の竪穴住居跡から白玉と土玉がたくさん見つかりました。

白玉は滑石製で20余り出土しました。白玉は祭祀に使われることが多く、何らかのまつりが行なわれていたのかもしれませんが。土玉は土鍾と共に10余り出土しました。漁で使う網のおもりにしていました。



白玉



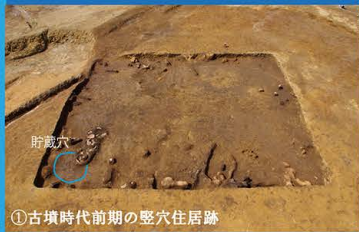
土玉

凡例	
■	縄文時代早期炉穴
■	古墳時代前期 竪穴住居跡
■	古墳時代中期～後期初頭 竪穴住居跡
■	古墳時代後期 竪穴住居跡
■	奈良・平安時代 竪穴住居跡
■	調査中または未調査 竪穴住居跡
■	機 乱

槇野地北遺跡 MAP



竪穴住居跡



①古墳時代前期の竪穴住居跡



②古墳時代後期の竪穴住居跡



③古墳時代後期の竪穴状遺構



④奈良時代の竪穴住居跡

竪穴住居跡は古墳時代前期・中期・後期、奈良時代のものが発見されました。

調査の結果、古墳時代後期、奈良時代の竪穴住居跡が主体をなしていることがわかりました。25年度の調査で発見された奈良時代の竪穴住居跡は3軒でしたが、今回は6軒以上見つかりました。奈良時代の集落は、今回の調査区に中心があったのでしょうか。



鉄製の工具？

砥石



鉄製の鎌

様々な遺物

竪穴住居跡からは、土器のほかにも農工具と考えられる鉄製品や刀子、砥石、玉類が出土しています。

カマドがない！

小型の甕

石製模造品？

奈良時代の竪穴住居跡から出土する須恵器は、常陸産が目立ち、武蔵産はほとんどみられないのが特徴です。

補強材の常陸型甕

(茨城県南部～千葉県北部の土器)

槇野地北遺跡のカマドの多くは粘土で作られています。奈良時代のカマドからは補強材として甕をカマドの壁に貼り付けている例もみつかりました。

